第20号
平成７年
１９９５

会報

にしきうら

高知県立須崎工業高等学校同窓会

会報「にしきうら」第20号　平成７年　1995
発送会員 8,096名　在校生 516名　旧・現教職員 76名　印刷合計 8,688冊

目　　次

ご　挨　拶……同窓会　会長　寺田　郁雄…1
ご　挨　拶……学　校　長　尾崎　翹彦…2
ご　挨　拶　須工同窓会のますますのご発展を…前　学　校　長　岡崎　紀秋…3
学校近況……教　　頭　小松　陽一…4
進路状況について……進路指導部長　西川　哲夫…5
関東支部だより　関東支部今昔……福井　幸正…6
京滋支部だより　停年に想う……上田　智明…7
大阪支部だより……浜口　博…8
須崎支部だより……戸梶　昭雄…9
窪川支部だより　高南台地の秋……川添　泉…10
高知支部だより……森下　春茂…10
高知支部総会案内……11
海外だより……崔　權炯…12
造船科50周年記念式典……森　久敬…14
開校記念行事……事　務　局…15
平成６年度決算並びに平成７年度予算……16
終身会費納入者名（１年間分）平成６年10月１日～平成７年９月30日……17
会報届先不明者……18
事務局だより……20
平成８年度同窓会総会案内……20
本部役員名簿……21
校　　歌
各種証明書の発行について
編集後記

ご挨拶

昭和21年機械科第一種卒
同窓会会長　寺田郁雄

同窓会の皆さん御元気でご活躍のこと、御慶び申し上げます。

日頃より同窓会活動に御協力いただき誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

会報「にしきうら」も御陰様で、この度第二〇号の発刊のはこびと相成りました。これ一重に事務局の先生方の並々ならぬ御努力と、関係各位の御協力の賜物でございまして、心より感謝いたしますと共に、御礼申し上げます。

扨て、皆様方御承知の通り、本年四月の異動によりまして、岡崎紀秋校長先生には、安芸工業高等学校々長に御栄転され、後任として、高知工業高等学校定時制教頭であられました、尾崎翹彦先生が母校校長に御栄転され、めでたく御着任されました。

おもえば、岡崎校長先生は、平成四年母校の教頭に御着任になり、同五年四月に校長職に御栄進され三ヶ年間の長きに亘り、卓越せる先端技術を中心として生徒をご指導され且つ又、同窓会発展のため御協力いただきました。

茲に、先生のご功績に対しまして、深甚なる敬意を表しますと共に、衷心より御礼申し上げます。

尾崎校長先生は、高知工業高等学校定時制教頭として敏腕を発揮され、教育会に名を覇せた先生であります。

このような立派な校長先生を御迎えできましたことは、母校は申すまでもなく、同窓会といたしましても、ほんとに心強く、今後先生の御手腕に御期待申し上げる次第であります。

尾崎校長先生、どうか母校共々、同窓会をよろしく御指導のほど御願い申し上げます。

扨て、会員の皆様、母校は大規模工事も完了し、見違えるように美しく機能的に生れ変りました。機会がありましたら、一度訪れて見学され後輩を激励して下さい。

がしかし乍ら、学校をとり巻く状況は決して喜こばしいことばかりではありません。すでに御案内のとおり、母校は本年度より電気科が一クラス減少しましたが、その上に来年度は、機械科がこれ又、一クラス減少になることも確定的のようであります。母校としましては、ほんとに重大なることでありますが、須工同窓会としましても、史上空前の低金利等に加えてその運営に大きく影響を受けることになります。

これは時代の趨勢とは申せ誠に厳しいものであります。このような時こそ我々は会員相互の親和を計りながら組織の強化に努めなければならないと考えます。

そこで本年五月の本部理事会に於きまして、来年八月十一日を期して、同窓会総会を開くことに決定いたしました。

会員の皆様方には何かと忙しい時期ではありますが、多数の御出席を御願い致します。

当日は、新旧の会員が、一同に会し、久しぶりに胸襟を開き、母校並に同窓会の今後について、腹蔵なき意見を交換し、須工健児の健在ぶりを確認しようではありませんか。

終りに臨み、会員皆様方の御健康と更なる御発展を衷心より御祈り申し上げます。

ご挨拶

学校長
尾崎　翹彦

同窓会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のことお喜び申し上げます。

この春の人事異動により、前岡崎校長先生の後任として高知工業高校から赴任いたしました。

開校五十四年の歴史と輝かしい伝統をもつ本校の校長として奉職させていただくことは、身に余る光栄に存じますとともに、その課せられた使命の重大さを痛感いたしております。

なに分、未熟でございますが、皆様方のご支援をいただき、職責を果たしたいと思いますので、格別のお力添えをお願いいたします。

さて、最近職業高校の活性化をめぐって各方面で活発な検討がなされています。

このような社会の著しい変化に伴いこれまで以上に高度なそして専門的な知識・技術を有する人材（スペシャリスト）が必要となってまいりました。

職業高校では、今までのような将来必要なすべての知識・技術を教える「完成教育」から「継続教育」へ転換をはかり、そして、社会の技術革新と教育現場のギャップが大きいことや、生涯教育の流れに合せ高校三年間で基礎・基本に的を絞り、卒業後も継続的な教育を受けることで「将来のスペシャリスト」の育成を図ることが求められています。

一方、職業高校から大学への進学は難しいという、「出口の狭さ」の改善も望まれ、大幅な大学推薦枠の拡大や特別選抜試験が実施されるようになっています。

このような中で、先般、本県の平成八年度の高等学校入学定員数が発表され、本校の機械科が一クラス減となりました。

誠に断腸の思いではございますが、中学生の急激な生徒減少ではどうにも致し方ありません。

そのためには、本校におきましては、「魅力あるそして特色ある学校づくり」に取り組むことが急務であります。まず第一に基礎学力向上を目標として取り組み、学力差をなくすための習熟度別クラス編成や、選択制（コース制）の導入により、大学等への進学のための教育課程の改編等を行ない魅力ある学校づくりを進める必要があります。

また、各教科のみならず、クラブ活動や勤労体験を通じて学校の活性化を積極的に図って行きたいと思っています。

そして一方では、通常の授業以外に補習等を行い努力した学習の成果を、多くの生徒に公的職業資格取得に挑戦させて、その成就感を味あわせると同時に自己の専門分野の自信と誇りにつながるような指導もしていますが、尚、一層の努力をいたしたいと考えています。

生徒指導については、本校創立五十周年記念の際生徒会が中心となって、本校生徒の高校生活における指針として五項目よりなる生徒憲章が設定され、これを基本方針として努力を重ねる指導を行っています。

今年度の就職につきましては、揺れ動く世界情勢の渦中にあって、日本経済はいわゆるバブル経済の崩壊により景気後退局面が、より一層鮮明になり大変厳しい状況であります。

現在の状況につきましては、昨年より三・四割方求人数が減少し、とりわけ県内企業からの求人が、半数以下になり、またその内容についても大変厳しい就職状況でございます。

どうか、同窓生の皆様におかれましては、後輩のために、それぞれのお立場から格別のご支援をお願い申し上げます。

本校五十四年の歴史と伝統は、ひとえに同窓会の皆様方の今日まで培ってこられた努力の賜であり、私たちは、この輝かしい伝統を受け継ぎ、今後さらに向上発展させていかなくては成りません。

誠に、微力ではございますが、全力を尽して、責務を全うといたす所存でございます。

今後とも、よろしくご指導、お力添え賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

須工同窓会のますますのご発展を

前学校長　岡崎紀秋

同窓会の皆様にはお変わりもなく、それぞれの分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。

私は、本年度の異動で図らずも安芸工業高校に転任になりました。須崎工業高校では教頭として一年、校長として二年、同窓会の皆様にはいろいろとお世話になりました。新米校長でずいぶんご迷惑をおかけしたにもかかわりませず、同窓会の皆様には常に暖かくしていただき、心から感謝いたしております。

須工では二度勤めさしていただきました。一度目は昭和四五年度からの六年間、教師になってから七年目の青二才でしたが、好奇心だけは人一倍強かったと思っております。釣に海に関心がありました。釣が趣味の先生が何人もいて教えていただきました。キスゴからまぐろまで、私が最初に釣を覚えたのは須工です。その後、釣をつうじての先輩や後輩ができ、釣だけでなく仕事上のアドバイスもしてもらっております。須工のおかげだと感謝しております。

造船科では小型の船を造っておりました。一日一日船の形ができあがっていくのに興味があり、見せてもらっているうちに手伝えということになりました。一部でも自分がかかわった船の進水の感激を経験させていただきました。船の免許を取ったのもその頃です。

二度目は平成四年度、創立五十周年記念事業がなされた翌年からでした。事業のひとつとして、校庭に同窓会のご援助をいただいて建立した生徒憲章の碑が建っておりました。その文面は前文と五項目からなり、まことに格調高いものでした。須工生の行動目標をさし示し、将来の指針となる立派なものでした。須工で勤める以上、生徒達にこの生徒憲章の理念の理解を求め、実行してもらう必要があると強く感じました。機会あるごとに生徒に話をしましたが、力不足でどれぐらい浸透したか疑問でございます。

電気科が一クラス減になったのは、急激な生徒減が続いているとはいえ、まことに残念であり申し訳けなく思っております。

平成六年十一月には造船科の五十周年の記念行事が、造船科の同窓生を中心として盛大に行われました。

清家前会長さんから寺田会長さんにバトンタッチがなされました。清家前会長さんに直接ご交誼をいただいたのは短い期間でございましたが、まことに誠実、高潔なお人柄、会長さんとして同窓会の発展に母校の発展に長い間熱心に取り組んでいただいた姿には感謝してもしきれないものがございます。

新しく会長になられた寺田会長さんはファイトあふれる方でございます。新会長のもと同窓会のますますのご発展を願ってやみません。

短い間でしたが、折にふれ同窓会の皆様にはたいへんお世話になりました。心からお礼を申し上げます。

さて、本年度からお勤めの尾崎校長先生は、かつて本校での勤務の経験がおありです。新しい事業に積極的に取組み成果を挙げられるなど、企画力、実行力に優れかつ温厚な方でございます。すでに須工発展の計画を立てておられるとも伺っております。同窓会の皆様のこれまでに変わらぬ暖かいご支援をお願いいたします。

ところで、工業高校にとってこれからの時代は順風とはいえない状況があります。皆様ご存じのように、欧米に追い付け追い越せと努力し、日本は経済大国になりましたが、今、先進国間の競争は激しいし、また、追われる立場になるなかで、日本の発展を支えてきた工業が試練に立たされております。産業構造の変化、円高、貿易摩擦、産業の空洞化などがあります。経済の先行きは不透明です。また、若者の間に理工系離れが進行しております。それに加えて急激で長期にわたる生徒減が重くのしかかっております。

しかし、このような厳しい時であるからこそ、次の発展に向けての努力、光を見出す努力がなされ、新たな出発をすることが重要でございます。

創立五十年、同窓会は円熟期でございます。同窓生の皆様が工業教育に関心を寄せていただき、ひいては母校の発展につながりますようお願いいたします。

同窓会の皆様にいただいたご厚情に感謝し、須工同窓会のますますの発展をご祈念申し上げます。

ありがとうございました。

学校近況

教頭　小松　陽一

同窓会員の皆様、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

本校は、昭和十六年創立、昭和四七年には、多ノ郷和佐田の錦浦湾の見える高台に移転し、二五年目になります。

学校周辺の街並、道路事情も随分と変りました。特に、大間（緑町）は、病院・ショッピングセンター・ホテル等、活気ある町となっています。多ノ郷地区の人口は、増加の一途をたどっていますし、交通網につきましても、平成七年七月には、学校北側の加茂神社の西側へ、トンネルが開通し学校より新荘川へ車で五分、葉山・梼原方面には、随分時間が短縮される様になりました。

気になる生徒数ですが、県教育委員会より、平成八年度入学定員の削減の発表がありました。平成八年三月中学卒業見込者は、前年より一〇二五人減の九五八二人です。このため、県教委では、普通科六校で計八学級減、職業科では、五校で各一学級減の発表があり、工業系では、須崎工業と高知工業の機械科がそれぞれ一学級減となり、このため、本校の平成八年度入学生は、M・S・C・E科一学級となりました。

在校生は、全体的にみましても、朝夕の挨拶、服装も良く、スポーツ・各種資格試験に挑戦し頑張っています。やがて後輩も同窓生となり、母校を想う気持は一つだと思います。そのためにも残された学園生活が充実した日々となるよう願っています。

五月二五日には本校の開校記念日であります。毎年、同窓会事務局より、同窓生を招き、講話をお願いしております。今年は、造船科一期生、武石英男氏より、母校の想い出や社会情勢についての講話をいただきました。また、恒例の各科対抗の綱引大会も盛大におこなわれ、造船科が昨年に続き優勝しました。秋には、三年に一回の文化祭（第一七回）が十一月四日、五日に開催されます。一年生から三年生まで各ホームの模擬店などの出し物、部活動の成果の発表、工業教育の内容を紹介する各科の展示や実演など、工業高校の特徴を生かした内容となっており、地域へ工業高校の取り組みをおおいに宣伝したいと考えております。

施設整備面では、平成四・五・六年度に本館、専門棟の大規模外装工事と南舎内部大規模改造工事を予定していましたが、県財政面の都合により工事延期となり残念でなりませんが、生徒昇降所が完成し、校内が一斉に上履となり、玄関前周辺の環境も整備されました。教育機器は、パソコン利用の自動製図装置（CAD）四十セット購入に伴い、本館二階製図室をCAD室に改造しました。

人事につきましては、岡崎紀秋校長が安芸工業高校へ転出され、後任に高知工業高校より、尾崎翹彦校長が着任しました。

岡崎校長は、本校で教頭一年、校長二年ご勤務され、本校の教育向上にご尽力され、その間、生徒指導、教育機器の導入や校舎改修工事等に手腕を発揮されました。

他に、多くの諸先生方が、転出、転入されました。諸先生方のご活躍をお祈り申し上げます。

教職員の異動

転出

岡崎　紀秋（校長）安芸工業高
池田　数人（数学）清水高
西谷　英和（化工）安芸工業高
中山　護邦（電気）高知東工業高
西村　卓哉（電気）安芸工業高
大妻　紀俱（事務）佐川高
小笠原理佳（理科）城山高
国澤　千砂（英語）高知東高
古谷　和子（英語）久礼分校
小松　靖（体育）室戸・中芸高
渡辺　哲哉（美術）大方商・窪川高
中平　悦子（国語）高知東高
市川　和広（社会）伊野商業高
尾崎　翹彦（校長）高知工業高
池田　功（数学）宇佐分校
山形　錦生（電気）高知東工業高
武内　孝明（化工）高知工業高
大西　多津（事務）高知南高
村田　恵美（国語）講師
池田　進（国語）講師
田所　祐子（英語）講師
三浦さおり（英語）講師
鈴木　祐子（理科）講師
清本　祥一（理科）講師
梅原　富子（家庭）講師

転入

今年も多くの新進の教職員をお迎えしました。本校の発展に努力しております。同窓会員の皆様のご指導、ご援助をよろしくお願い申し上げます。

進路状況について

進路指導部長
西川　哲夫

卒業生の皆様、常々後輩の就職につきましては御指導御助言を頂きまして心よりお礼申し上げます。

バブル経済の崩壊により不況と云われだして久しくなりますが、第一次石油ショック以来の採用減で本年度の採用は超永河期の時代になったと云われ、近年世界の中での日本の立場についての報道が多くされております。

国外ではボスニア問題、北朝鮮の原子力発電、イスラエルとPLOの和解によるゴラン高原へのPKO問題、フランス、中国の核実験問題等々があります。

経済面では日本への市場開放要求と合せて、1ドル80円代までの急激な円高による国外生産の空洞化の進行、合せて一月に発生した阪神淡路大震災による日本の大動脈である新幹線、高速道路の破損による物流の中断、サリン事件、薬物による数々の犯罪や個人消費による内需拡大が進まず、生産調整とリストラ対策でなかなか雇用の拡大が期待出来ない中で、戦後最大級の関東、関西の信用組合、金融機関の破綻と続く中で、公定歩合を先進国では初の低水準の〇・五%に決定、金融緩和は連続9度目となりました。

近く政府がまとめる十兆円規模の追加経済対策は景気浮揚支援をすることで、円安ドル高の流れを加速させる意図だと云われており、1ドル104円代まで回復はしましたが、産業界は輸出比率が高い企業を中心に「円相場はまだ企業の適応力を上回る」とし、鉄工業界、自動車関係、石油化学業界等々同じような意味で「短期的な円安傾向ととらえている」と、発言しています。

四国経済連合会は6月からさらに後退、景気は「下降」あるいは「底ばい」と見る企業が92%に達するとしています。

日銀高知支店の短期経済観測調査（8月実施高新）では、製造業は円高の影響等から再び「悪い」となり、非製造業でも需要低迷や競合激化を懸念するとして、状況判断は再び悪化と発表しています。

雇用面では、製造業は過剰、非製造業は不足、全体では「過剰」と発表されている中で本年度も入社試験への出発する日が近づきました。

生徒達も自分の目的達成の為に準備を整えてきましたが、それぞれの地域に無事内定しました節には先輩方からの卒業生に対する温い御支援御指導をお願いします。

なお表は昨年度迄の地域別表就職者数及び本年度受験希望企業先の地域別表、求人状況です。

（9月14日現在）

過去3年間の進路状況

年度	生徒数	進学	就職		その他
			県内	県外	
4年	200	17	73	107	3
5年	196	12	82	102	0
6年	206	32	77	91	6

本年度並びに過去2年間の求人状況（会社数）

年度	大阪	関西	東海	関東	中・四国	県外5地域合計	県内	計
5年	173	173	141	273	126	886	136	1,022
6年	120	98	72	164	86	540	128	636
7年	90	84	109	51	63	397	87	484

H7年度は8月31日現在の状況

地区別就職先（人数）

年度	3	4	5	6
県内	81	78	82	77
中・四国	32	36	30	38
大阪	17	19	21	14
関西	32	18	20	13
東海	23	21	17	14
関東	19	13	14	12

地区＼年度別	6年度就職先（人数）	7年度就職希望者数
関東	12	16
東海	14	11
関西	13	13
大阪	14	14
中・四国	38	32
県内	77	75

関東支部だより

関東支部今昔

昭和34年機械卒　福井　幸正

阪神大震災、地下鉄サリン事件で明けた平成7年は、戦後五十年の節目の年とか。さすればわが須工同窓会も五十年余の年輪を刻んで来たことになる。丁度、先輩諸氏からの提案もあって、当関東支部でも往事を偲び、行く方をおもんばかって記録を残すべく一部の関係者で座談会を催しました。（出席者：海地清幸　田所貞夫　野瀬公介　記録：福井幸正）

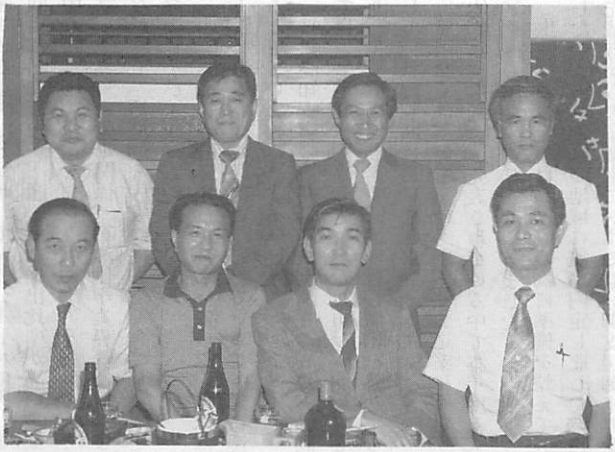
先ずは昭和十六年の母校創設当時の、今では想像を絶する思い出話、難関の入学試験を突破して入学してみたら未だ校舎が出来てなくて、勉強そっちのけで敷地の埋め立て作業に精を出したこと。戦争が激しくなるとこれに学徒動員の仕事が加わって、近くの松下電器に赴き徹夜でマンガン精錬を手伝い、芋粕の夜食で飢えを凌いだこと。そこでの勤勉さに対して「感謝状」を戴き校長からもいたくお褒めにあずかったこと。

そんな中で、グラマン戦闘機の機銃掃射を避けながらの入学試験を行い、今日の須工の基盤が出来たと聞かされて、感無量の思いでした。

そして戦後も大分落ち着いてきて、関東地方で暮らす同窓生も年を追って増加し、卒業生を売り込む就職活動にも毎年担任の先生が上京されるようになり、昭和三十年代半ば、当時その任にあられた田村隆徳先生から同窓会関東支部を創るようご指導があった。

そのお勧めを受けて、在京有志が集まり、母校からの資料と併せて会員を募り、赤坂の名門割烹「司」の女将に掛け合い、同郷のよしみで迫って発会式の会場を引き受けてもらったこと。格安な会費にして貰ったとはいえ大勢の酒豪が混じったパーティーが実は大赤字となり、当時の役員達がしりぬぐいに奔走したこと。

その当時から、同窓会をきちんと運営するには、「名簿」の整備が第一であるとの感は変わっていないとのこと。



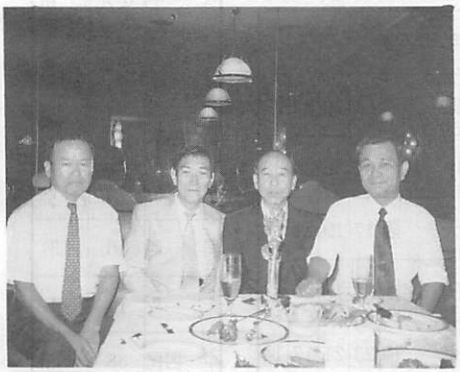
S57年夏　関東支部役員（今は亡き片岡命長氏を囲んで）

おそらくは千人を越えたであろう関東地区の同窓生（現在の把握は約七百人）の大多数が関心を寄せてくれる支部であるためには、いつまでも単なる宴会だけではだめだろうなあ、と反省ひとしきり。

名簿づくりはどうやらパソコンの時代となった。やがて近い将来インターネットでマルチメディアを駆使した同窓会情報が飛び交う時代が来ることだろう。

しかし、それも物足りないとは思わないだろうか？ナマの土佐弁が飛び交う中での思い出話を語り合う、そんな集まりが、これからもっと盛んになって欲しいと願うのは、こゝに集まった数人だけではない筈だ。忙しくても、不景気でも、だれかが音頭をとらなければ、同じ学び舎で青春を過ごしてきた我々のロマンが廃れるではないか？

そんな話で関東の夜も更けてきました。



H7年夏　新旧役員懇談

京滋支部だより

停年を想う

昭和29年機械卒　上田　智明

同窓の皆様には、御健勝にて御活躍されている事と思います。毎年発行されている「にしきうら」を拝読する度に、多くの先輩、後輩の皆様が、全国で御活躍されている様子を知り、ほんとに心強く感じますと共に、本部同窓会役員の皆様、又須崎工業の先生方の御努力に対し、心より敬意を表します。

平成七年を迎え、一月には阪神大震災、東京地下鉄サリン事件、又経済面では急激な円高等、大ニュースで新聞、テレビを賑わしている今日ですが、同窓の皆様にも、地震災害、サリン災害、又職場におかれましては職務等、厳しい状況に、何等かの、被害を受けられていられるのではないかと、心配し致している所であります。近況等、分かれば「にしきうら」に乗せて載ければ幸いに思います。

私も平成七年十月末をもって、停年を迎える事になりました。振り返ってみますのに、昭和二十九年三月に学生服に運動グツ、と云った姿で、夢と希望を抱きつつ大都会、大阪へと、西佐川駅を後にした事でした。汽車での長時間の旅、大阪に到着の時は、鼻の穴は真黒だった事を覚えています。

大阪での会社勤務において、最大の壁は言葉でした。高知弁しか知らない私にとって、大阪は別の国の様に思われ頭を悩まし、何度となく、高知に帰ろうかと思った事でしたが、幸いにも須工の先輩の方が沢山おられ、いろいろと励まし、力付けてくれた事が今でも忘れる事は出来ません。

自分を取りまく人々、先輩、友人に恵まれ停年を迎える事は素晴しい事だと思っています。

今日迄停年は他人の事の様に思いうらやましく感じていましたが、自分がその立場になると、一日一日の会社勤務が貴重な存在として、受けとめている心境です。良き先輩、友人に恵まれ又、健康な体を与えてくれた両親に感謝しつつ停年後の生活設計に明け暮れる今日この頃です。まもなく会社勤務は終りますが、人生はこれからです。元気に活躍されている先輩の皆様に負けない様、頑張りたく思っています。

高知県に生れ育ち十八年、そして大阪に就職して十五年、滋賀工場に配属されて二十六年余り、過ぎ去って見れば早いものです。滋賀県が一番長く住んで居る事になります。皆様も御存じの通り、滋賀県は日本最大の湖、琵琶湖があり、水に恵まれ、災害は少なくその上、米は近江米がおいしい県ですが、一ツだけ物足りないのは魚です。高知に帰って、新鮮なカツオを食べる事が唯一の楽しみとなっています。子供の頃の想い出が多い高知が自分にとって、一番の古里、滋賀には何年住んでいても第二の古里であり、居住年数が多くても古里順位が変らないのは不思議な事ですね。

私の住んでいる所は、甲賀郡甲西町ですが、近くの町内にも、多くの高知県の方が在住され、又須工の先輩、後輩の方もおられます。私達も大阪支部と同様、「よさこい会」と称する会が七年前に出来、現在も続いています。毎年五月第四日曜日と日程を決め、夫婦共にどちらかが高知県出身であれば、夫婦そろって出席出来る事、と云う取り決めで、自然の中で「カツオ」のタタキを作り、サバの姿ずし、山菜料理等、酒は高知の司牡丹、土佐鶴で皆さんと、古里を想い浮べながら、楽しく味わっています。

一杯気嫌になると、高知の方言も飛びかい「ハシケン」も始まります。高知県人であると云う事で、始めて参加された方も、何年も付き合っている様な、楽しい、なごやかな会ですので、近所の方は気分転換にぜひ出席下さい。

さて京滋支部が平成四年四月に設立されて以来、廣瀬会長を軸として、各役員の皆様方により、今後の運営等について、思案し検討を進めておりますが、才二回総会における出席者数も少ない状況下にあります。いろいろと、御多忙の事と思いますが、次回総会にはぜひ多くの参加者を期待しております。

屋外の庭木ではツクツクボーシが、この夏の終りを告げようと必死で鳴いています。梅雨明け以来の猛暑続きで、西日本では測候所始まって以来の、記録的な暑さとなり、まだまだ続きそうです。同窓の皆様、又先生方も御自愛され、お元気で御活躍されます様祈り筆を終えます。

大阪支部だより

昭和40年造船卒

浜口　博

大阪は昨年に続き今年も記録的な残暑が続いております。本部の皆様、同窓会員の皆様にはお変りなく御健勝、御活躍の事とお慶び申し上げます。

今年は早々から大事故、事件が続き特に阪神地区において一月十七日未明に起きた、兵庫県南部地震では未曽有の大被害が発生し、罹災された方々には衷心よりお見舞申し上げます。災害と云っても五〇〇〇人以上の尊い人命を奪った瞬時の出来事に淡路、阪神地区在住の同窓生の皆様には、言語につくせない恐怖を感じられた事とお察し申し上げます。私の住んでいる高石市は大阪の南部に位置し震源地の淡路神戸からは60～70km離れ比較的遠い所に有り、地震の発生当日は寒い朝でまだ就寝中の時「ドシ」と突き上げる感じで揺れ始め動けない状態が続き、タンスの上の物が落ちたり不安定な物が倒れたりしましたが、我家はたいした被害もなく全員無事で安心致しました。ただ近くで場所によっては屋根瓦が落ちたり壁にヒビが入った所も多く震源から遠く離れた所でもかなりの被害が出て、今回の地震の大きさを実感した次第で有りました。

さて大阪支部では、隔年業事の平成六年度通常総会が、昨年十一月十八日大阪北区堂島の全日空シェラトンホテルに於いて開催されました。大阪支部会員六十二名、来賓として本部の寺田郁雄同窓会会長、森岡清前校長先生、本部事務局長井上耿介先生、京滋支部より廣瀬理支部長のご列席をいただきまして、支部総会を無事終了する事ができました。総会へのご支援、ご協力ありがとうございました。出席いただきました会員の皆様、ご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

六年度総会は、初めて三部構成で開催され、一部として総会に先立ち山田豊支部長（二十一年機械卒、税理士）のご好意により会員に関心の有る話として「税金のウラ話」と云う題目で講演をしていただき、内容は堅いイメージの有る税務署のウラ話、脱税ではない節税の方法など有意義なお話をしていただきました。第二部の式典では、議長に山田弘市顧問（十八年機械卒）が選出され、山田支部長の挨拶に続き事業及び会議等の報告を浜崎満良理事（四十年電気卒）が、平成四年～六年の会計収支報告を松村隆司会計（三十二年機械卒）が、会計監査報告を汲田正一会計監査（二十六年機械卒）が報告、説明を行いいずれも満場一致で可決、承認されました。審議事項の事業計画、予算、新役員選出については山田豊支部長が提案され、それを満場一致で承認、決定されました。又支部長より会員相互の親睦とつながりを深める為行事への参加特に若い層への呼びかけとご協力をお願い致しました。支部表彰では永年に亘りたびたび支部行事に来阪していただくなど大阪支部の発展に多大な貢献をしていただきました、母校前校長先生の森岡清さん（二十六年機械卒）と、大阪支部創立以来支部役員として運営、発展にご尽力していただき昨年郷里須崎に帰られました、池速水さん（二十六年機械卒）ご両名の功績に対し感謝状と記念品を贈呈させていただきました。続いて新役員の紹介を行い式典の最後に来賓を代表して寺田郁雄同窓会会長兼須崎支部長より祝詞、本部の近況等のお話をいただきました。以上で二部を終り別室で第三部の懇親会に移り汲田正一さんの開会の言葉、京滋支部廣瀬理支部長（二十一年機械卒）乾杯の音頭で始り歓談、祝宴となりました。大阪支部女性会員松村朱美さん（三十二年電気卒）長山明美さん（三十二年電気卒）による祝電の披露、「カラオケ」、大崎光春さん（三十二年機械卒）進行の「ビンゴゲーム大会」等でおおいに盛りあがり、フィナーレは来賓の皆様、支部の皆様が舞台に上り井上耿介先生（三十九年機械卒）に先導していただき参加者全員で校歌の合唱、万歳三唱で和気合々のうちお開きとなり平成六年度総会、全ての行事が終了となりました。本年は総会の年ではありませんが今後共御指導、御協力を宜しくお願い致します。

末筆ではありますが母校の益々の発展と、同窓会会員皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り致します。

須崎支部だより

昭和45年弱電卒
戸梶　昭雄

私は住友大阪セメント高知工場に勤務しています。先日、工場の先輩で須崎支部役員の山地健三氏より会報にしきうらの原稿を依頼されました。当工場には八十数名の須工卒業生が現役で活躍されており、他に適者がたくさん居られると一度はお断りしましたが、是非にとの事でお引き受けしました。

高知工場を簡単に御紹介したいと思います。昨年十月、住友セメントと大阪セメントが合併致しました。社名も旧大阪セメントから、住友大阪セメント高知工場に変わりました。高知工場では、セメントの半製品であるクリンカ製造と、クリンカを粉砕調合したセメントを製造して出荷しています。住友大阪セメントの国内シェアは業界第二位で約十八%、高知工場のクリンカ生産は年間四百万tとなっています。また、工場では自家発電装置を持っており、工場で使用する電力の約五十五%を賄っています。ここで自家発電を御紹介いたします。廃熱発電機出力一万五百KW一基、ディーゼル発電機出力五千六百KWが五基、合計しますと三万八千五百KWとなります。

私は、現在工場の工務課電気係に所属してこれらを含めた電気設備の保守及び故障修理を主たる業務として務めています。

学生時代の思い出として担任で三年間御指導いただいた恩師、中内裕先生との思い出を書きたいと思います。中内先生には当時の夏休み期間中、佐川町中本町のご自宅で近くのクラスメイトを集めて、計算尺やその他の教科の補習をしていただきました。きのうの出来事の様に思い出されます。奥様にも大変お世話になりました。ほんとうにありがとうございました。

話は変わりますが、悲しい出来事がありました。その時のメンバーの一人で親しい友人だった、刈谷良文君、もう一人の親しい友人西森逸夫君の交通事故死です。就職先も決まり、卒業を一ヶ月後に控えた昭和四十五年一月二十四日の事でした。ほんとうに悔まれます。この悲しい出来事は一生忘れる事はありません。故人のご冥福を心よりお祈りします。故人、良文君逸夫君の命日の墓参りで中内先生やクラスメイトと何度か会って両人の話や色々な話をしているうち、気持ちが通じたと申しますか、中内先生の御家族とは私共の家族と親しくお付合いさせていただく様になりました。中内先生の御家族には感謝しております。中内先生は現在も須工で教べんをとって居られ、この厳しい就職難の時期、職業指導でお骨折されていると聞いています。健康に気を付けられて増々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりますが、今迄ご指導くださいました先生、先輩、同僚の諸氏の方々に感謝を申し上げまして支部だよりとしたいと思います。

窪川支部だより

高南台地の秋

昭和21年機械科一種卒

川添　泉

昨年、会報19号誌上でご紹介致しました、窪川町が山間地域振興策として取り組んで来ました、地ビール四万十は、本年町議会の反対多数により、四万十の泡と消えました。誠に残念です。町政の運営は全く不可解なものであります。

昨今、世界的に地球環境汚染の問題がきびしく問われております。特に、昨年、今年と連続して、猛烈に暑い夏が続きました。地球の温暖化、小雨現象の始まりかなと心の片隅に一沫の不安がよぎります。然し、自然の変化は、月日の経過と共に確実に其の時を刻み、先の12号台風一過、高南台地は、朝晩一挙に晩秋の気候を迎えました。9月17日の夜は、今秋始めてストーブを焚きました。此れ程、高原の秋は、駆け足でやって来ます。今年は、気温も高く、充分な日照時間があり、台風過もなく、四万十流域一帯は、特産の仁井田米が秋風と共に黄金の波を打っています。此の美しい自然を守り後世に伝承する事の意義を持って流域市町村、住民一体となって四万十の自然をまもる運動を盛り上げています。同志の皆様、此の美しい自然の残された高原の町へ、立ち寄ってみませんか。今年は、政治、経済、更に深刻な社会問題等がありましたが、時の経過と共に自然は全てを包含して、四万十川は悠々の流れを見せています。

高知支部だより

昭和21年機械一種卒

森下　春茂

会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。本年三月から、支部長の役を仰せつかっています。御指導の程よろしくお願い申しあげます。さて、戦後50年という節目の機会に私たちの時代の須崎工業の状況をお話しましょう。非礼があれば、お許しを願って。

開校二年目から、はじまり

少年は、老い易く、学成り難し、一寸の光陰軽ずべからず……朗々と読み上げる太田幸吉先生の漢文の時間。この詩の中味には、いまも実感している。私たちが入学したのは、昭和十七年（一九四二年）で大東亜戦争二年目、（大平洋戦争とは戦後から）学校も創立されて二年目。

戦後郵政大臣になられた須崎出身寺尾豊氏からの浄財10万円の寄付金にはじまるといわれていた。学科は機械科のみで発足、後に造船科ができた。校舎は山手の須崎小学校を仮校舎としていたが、一方で、既に紀町の現ゆたかに、校舎は建築中、校庭は埋立中で、トロッコがあった。平家建の実習工場は、完成していて、これが工業学校というものかと胸をふくらませたものだが、一度もこの工作機械を動かすことなく卒業してしまった。

博物と用器画は橋本清美先生で、この先生の夏休みの宿題に、蝶々の標本つくりと蟻の観察があったが、蝶々の標本つくり、父親になってからも、息子孫たちの夏休みの宿題つくりに役立ってきた。校長先生は中内知章先生で、高知工業から来られ、人格者で、時々お面白いお話をして下さった。先生は新設校だけに、大変ご苦労されたようである。背が高く、見るからに英国紳士という感じは、英語の新階佐平先生、きびしさと夢のあるたのしい授業で、今様に云えば、誇らしい僕達のホーム主任であった。先生は当時としては極めて稀な自動車運転免許の所持者であった。たまたま、日本と英国とかシンガポールで戦ったときの戦利品、英国製の自動車が学校に贈られてきていて、多分この先生が運転されたと思うが、その姿を見ることはなかった。機械の先生に田村隆徳先生がおられた。大変やさしい先生で学校草別けに功労の大きい先生、退職後は佐川町で花屋をされ、御健在。

教練という時間があった。山本教管は中土佐町久礼から通勤しておられ、コワかったが、妙に親しみも持てたとは久礼から通学組の者の談。教練は体育の時間と考えればよかったと思う。

いよいよ戦争は激しく、日本は負け戦さとなる。一億一心、勝つまでは欲しがりません！鬼畜米英、戦意高揚する掛声。スローガンがいっぱいでき、学校もおちおち勉強が出来なくなってきて食糧増産ー

勤労奉仕で、土佐市戸波の本村、農家に泊り込み、又、吾桑で麦刈、押岡での草刈。

遂に、国策による学徒動員ということになる。余り勉強が好きとは云えない僕たちは、軍需工場へいくことは不安ではなく、お国のためという使命感もちょっぴり持っていた。生徒の配置先はつぎのように、松下電器（新荘現須崎高校）、高知県造船須崎（大間）、須崎造船（須崎町内）、白石工業（吾桑）に夫々、別れて働くことになった。当時は工場にも配属将校として軍人が派遣されていた。僕ら10名位は最初須崎造船から白石工業に配置替になった。須崎造船株式会社からいただいた感謝状には『右者国家の要請に応じ学徒勤労動員に出動皆勤シ班長トシテ克ク職分ヲ盡セリ　仍テ茲ニ金壹封ヲ贈呈シ其ノ勞ヲ謝ス　昭和二十年四月四日　須崎造船株式会社』

終戦も間近い頃だった。白石工業の上層部の石灰石を焼く釜のある附近に、突然敵機グラマンが飛来して、バン、バン……バンと、機銃操作に見舞れたのである。近くの防空壕に逃げこんだが、全く危いことで、その時いたのは、京滋支部長廣瀬理君だった。

少し話は後に戻り、昭和十八年（一九三三年）東洋史を市原麟一郎から教はることとなる。市原先生は、須崎の出身、大学を出られたばかり、教育に対する情熱に溢れ、声も大きく、はっきりと、大学並の教室であった。ノートを執るのに少し苦労があった。想えば、冬休みの宿題に、君たちの住む里の昔話を集めてきなさいということがあった。僕も、まじめに、日高村猿田洞で忍術の修業したといわれる忍者日下茂平の話を提出した。戦後先生は、NHKから放送され民話の絵本つくり、紙芝居つくりと上演に、土佐民話の会を主宰され、今や、全国に知られた民話の大家である。

学徒動員は、校外実習を考え、工場という社会で職工さんらに触れることにより、早くから親に習うことのできない勉強もできたと思う。そのお蔭もあり、仲間には経営者、行政マンとして頭角を現したもの数々あることを報告し、終りとする。

あの青春が戻る日々に集れ！

－同窓会は相互の親睦が総であり
その親密な交流が母校隆盛に直結する－

平成8年4月25日　理事・幹事合同役員会
〃　5月25日　総　会
〃　会場　高知会館
〃　11月25日　理事・幹事合同役員会
（忘年例会）

高知支部は、これらの会の成功めざして
地域・職域の名簿づくりを進めています。
ご協力お願いします。　高知支部

平成七年三月七日高知支部総会（於　高知会館）

海外だより

邂遇

昭和20年機械科二種卒　崔（チェ）　權炯（フォンヒロン）

私の身の上は、開校五十周年記念誌の中で詳しく記述しましたので、ここでは省略します。

この世に人間に生れ、一生の歳月の内で人と人の〝邂遇〟即ち、出会いの機会は数えることのできない程多いと思う。

勿論、その中には夫婦の出合いから戦争で生死の間際に立った敵との出合いまであります。

又、肉親との出合い、友人、恋人、同僚、恩師との、同窓生との……その外、日常生活の中で各種の出合いの機会は限りないものだ。

人生は、本当に出合いから始まり出合いで終るような気がする。

勿論、私は私の生活信条の一つに当るがなんの目的で世の中に生れたかと聞かれれば、人との出合いを楽しむために生れたと答えてきた。

このように、人生の礎となる学び（母校）と深い因縁のある人達との出合いもその一つである。

この母校有縁の出合いは、特に雰囲気が豊かで追憶、信頼、愛情、絶叫がわき溢れ、他の出合いでは探すことのできない特殊性を持っている。

私は、我国で幸いに恩師と同期生と後輩に出合い、この真価を味わう機会を得ました。

私にとって、本当に意義深く貴重な収獲であった。

須工を卒業後、母校と因縁のある人達が、私の祖国を訪問して下さった事が四～五回程度あったと思う。

その中で、最も印象深かったのは、「同期生との邂遇」であった。

私は長い間、韓国で同窓会（クラス会）を開催して見たい気持ちで、同期生と連絡を取り交渉したが、相手の色々な事情で実現できず、ようやく一九八八年秋に、梅原康一（須崎市）遠藤源一郎（加古川市）田所三郎（春野町）片岡弥太郎（玉野市）小松章洋（高知市）三木正廣（宿毛市）中平善造（大阪市）の七名が来韓して下さって、貧弱な集りだったが、それでも韓国で少し変った情趣のもとで同窓の情を味わった。

その次は〝恩師との邂遇〟である。

ひと時、亡なられた人が生き還ったとの噂でその名声が高い恩師桑原章師先生（愛称・カマキリ）が、奥様とご一緒で突然来韓下され、短かい日程でしたが師弟間の情誼を厚くして感銘深い事であった。

三番目が〝後輩との邂遇〟に当る。

この三つを揚げることができるが、その中の同期生との邂遇、恩師との邂遇に於いても印象に残る色々な逸話も多いけれど、限られた紙面のため〝後輩との邂遇〟だけを述べることとする。

一九九二年の春のいつかの日、東京で開催された国際会議（労働関係）に出席して帰った私の実弟、廣炯君（大韓民国全国労働組合本部国際局長）が、日本全国電気労働組合連合会の役員に兄貴の母校の同窓に当る人が居るようだと伝えてくれた。

私はずっと労働運動に深く関わって来たので、労働〟のこの一言に深い好奇心を持った。

その後、十月初旬頃に実弟から前に話した同窓に当る人が明日来韓するという。

連絡を受取った翌日、どのような男かな？先輩として、威張る気持ちではないが、ちょっと威厳と貫録を見せんといかんと考え身を整えて自宅を出た。

名梁の全国電力労働組合本部を訪問。委員長室をノックして部屋に入ると、応接セットに四～五人の見なれぬ来賓がすわっていた。

主人格に当る委員長が、この方は第二代目の委員長ですと私を紹介した。

一番端側に座っている人との挨拶が終り、続いて座席に頭髪が半白で目が聰明に輝き短駆で貴公子タイプの男であった。

右手を出しながら崔權炯ですと言うと、私は近澤幸勢ですと答えてきた。

直感、この人が後輩だなと思いながら（前に実弟から名前を聞いたことがあるので）、出身校はどちらですかと聞くと、高知県の須崎工業ですとの返事で私と同門ですか、何年卒業ですか？昭和40年電気通信科を卒業しました。

そこで、私は昭和20年機械科ですと話すうち、そばの誰かが、大先輩に当りますねと一言付け加えた。懐しさが、一杯だった。

私の国で異国の後輩に合うとは、本当に夢のようだ。夫婦の間は別れたら他人になるが、同窓関係は一生切っても切れない因縁を持っているのではないか。

私のように国籍が異なってもどこ迄も同窓は同窓だ。極端な表現だが、死んで土に埋っても同窓には変わりない。

私のように異国で少し異なった環境での対面はちょっと珍しいと思う。

特に、この後輩は、私の歩んできた跡の如く、勤労

者の権益伸張と福祉向上のため活躍している。同志であり、又後輩に当り、同窓の仲ではないか、限りなく嬉しく、又懐しい。聞けば近澤後輩は、四国電力所属で、日本国電力労働組合組織局長を担当しながら、アジア地域電力労働組合相互間の連帯を計る目的で結成した。

この組織の事務局長を兼職してこの度、韓国で開催する大会を主管するため来韓したと言う。

その晩、床についたが、しばらく寝つけられなかった。母校の校舎の面影、友愛が溢れる同期生達の顔姿、個性の強かった数々の恩師の思い出、その外学校の埋立作業、草刈り、暗渠堀り等の勤労奉仕などが走馬燈の如く次々と浮び上った。

翌日、今日の私の日程を全てキャンセルしても後輩を捉えんといかんと決心して、宿舎を予告なしに急襲した。今夜、時間を空けてくれるように頼んだが、仕事の関係できれいに断わられた。それでも私は退くわけにはいかん。きつい程言い張って遂に話がまとまった。

その晩、市内の外国人向の料亭で有関者六名が集まった。

室内の準備が整い、私の音頭で乾杯した。

勿論、その音頭の中には〝須崎工業並びに同窓会の発展を祈る〟と言う一節も含まれているのは言うまでもない。

愉快な晩だから、ゆったり飲んでくれと杯を廻した。何度も後輩と対酌した。

酒気が高まるに従って声もだんだん大きくなり、歌いだしたりして雰囲気も絶頂に達した。

元気で頑張ろうと後輩の背を叩いたり、力いっぱい手を握ったりしながら須工と労働運動を主題に色々と語り合った。

握り合った手の間に須工の濃い血が流れ一脈あい通ずる感覚を受けた。又手と手の間から錦浦の荒波が流れるような気持がする。

食卓の上に並べている食物の中から新荘川の鮎の塩焼きのにおいが鼻にしみ込んでくる感じもする。

雰囲気に陶酔され、もうろうとしていた時、誰かがもう時間だ帰ろうやと言う声が聞えて来た。十二時迄、いや翌日の朝迄でもけっこうだと思うが、将来ある後輩を傷つけては駄目だと惜別の挨拶を交わした。

その後、アジア電力労働組合の大会が後輩近澤事務局長の、めざましい活躍のもとで予定通り成功裏に終り、この連合会の発展のためにも、大きな業績を残したことを、実弟が伝えてくれた。

立派な後輩だった。我等の友情よ　須工の誇よ

（H六年十一月寄稿）

崔氏　近澤氏

平成七年紀会（クラス会）
H七年五月二十七日（須崎プリンスホテルにて）
（崔氏来日）

造船科五十周年記念式典がとり行なわれる

昭和24年造船卒
森　久敬

本校造船科が昨年設立五十周年を迎え平成六年十一月二十六日（土）母校で記念式典を行ないました。記念にスクリューのモニュメントも設置し、造船科の卒業生や、在校生、関係者ら約二百名が参加し、お祝をしました。

造船科は昭和十九年戦争末期の輸送船特需急増に対応するため国策として開設され、全国で数十校に造船科が設置されました。本県では母校だけでした。現在、造船科は全国で僅か五校しかない大変ユニークな学科であります。

式典では先ず本校ＯＢの堅田育鋭、四国運輸局造船課長（機三四卒）が船舶の技術革新の現状について記念講演をされました。

その後、岡崎紀秋校長、竹村義典先生より祝詞、武石英男造船科五十周年記念実行委員長（造二十五卒）より昔の生徒確保の苦労、科存続の運動、造船不況、の思い出等を語ってもらいました。

記念のモニュメントとして愛媛県の今治造船所から寄贈してもらった直径二、二八ｍ、重量一、一トンのスクリュウプロペラの除幕式、ＯＢからプレゼントされた赤ケヤキの記念植樹が行なわれました。スクリュウプロペラは造船科のたゆまぬ前進を象徴、赤ケヤキはかつて船体の助骨「スマント）キール（竜骨）に使われていたことから選ばれました。又後日にはタイムカプセルを玄関前庭に埋設し三十年後に開くことにしました。

最後に三年造船科前田万年君が謝辞を述べ同科のさらなる発展を誓いました。そして須崎プリンスホテルにて多勢の参加のもと祝賀会を盛大にとり行ないました。

（表紙写真は記念モニュメント除幕式の写真です。）

Ｈ７年11月５日(日)　文化祭壁画製作担当生徒会

開校記念行事

学校行事として、毎年五月二十五日に開校記念式典が行なわれております。

講師は、同窓会が、卒業生にお願いしております。本年度は、大阪支部の造船科一期生（昭和25年卒）の武石英男氏に、お願いいたしました。

武石氏は、㈱扇商会取締役社長として、ご多忙中にかかわらず来校して下さり、全校生徒を前に「須工を出航して」と題して講演して下さいました。

生徒達の今後の指標となったことと思います。

ご講話にお礼申し上げます。

又、開校記念行事に参加下さいました、同期生の皆様にお礼申し上げます。

開校記念日の講演を聞いて

二年　津野　聡

五月二十五日は、須崎工業高等学校の開校記念日で、大阪から須崎工業高等学校造船科一期生の扇商会の社長さんが、講演にきてくれました。武石さんは、過去に起こった重要な事件や、現在起こっている大きな出来事、また、自分で体験した南海大地震と阪神大震災の事も話してくれました。この話によってどれほどひどかったかなどや、早起きは自分にとって得になるということも聞かされました。

そして、スポーツマンの精神を持てという事も言っていました。その具体的な例に、昔のウィンブルドンテニスの決勝戦の事を話してくれました。イギリス人と日本人との勝負の時、相手が足をすべらした時に、ゆるやかに球をかえしたという。勝負の最中でも相手の事も考える、そんな心掛けをせよ、という事を、いい聞かされました。

これから部活動をしていく中で、武石さんの言った言葉をさんこうにして行きたいと思います。

講師の先生の話を聞いて

二年　尾崎　剛志

僕は、開校記念日の日に来た、講師の武石英男さんという人の話を聞いて僕自身には、ちょっと難しい話の部分がいくつかあったので分かりにくいところもありました。武石さんは経済の話や昔起こった津波などの話をしていたけど、僕は経済の今の状態のことで分かりにくいところもあったけど、津波のことをいっているときは何となく分かりました。武石さんがいっていた事のほとんどの事が今の、経済の事ばかりだったので本当に難しかったです。武石さんが最後の方で、技術者はがんばらなければいけないといっていたけど、やっぱり今まで以上に技術者というのは必要なものだと思いました。

武石さんの言っていたことは、とても難しかったけど、とても良い話をしてくれたと思います。

平成６年度決算報告書

	費目	金額（円）	備考
収入の部	前年度繰越金	292,304	
	新入生入会金	330,000	165名＊2,000円
	雑収入	715	
	特別会計利息	520,819	
	特別会計補助	1,550,000	
	計	2,693,838	
支出の部	費目	金額（円）	備考
	会議費	40,040	
	事業費	1,267,482	開校記念品代 54,239 会報印刷代 564,400 会報送料 496,660 封筒 49,600 振替用紙 34,320 終身会費領収書 12,000 その他 56,263
	通信費	28,780	
	事務費	4,664	
	慶弔費	140,219	
	支部配分金	561,950	
	雑費	9,108	
	旅費	262,050	
	予備費	50,000	
	計	2,364,293	
収入 支出 残額 2,693,838 － 2,364,293 ＝ 329,545円			

〈特別会計〉

	費目	金額	備考
終身会費	前年度末積立額	32,310,000	
	本年度納入額	2,770,000	新卒（2,060,000） 旧卒（ 710,000）
	一般会計補助	▲1550,000	
	計	33,530,000	

監査報告

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確実に管理適正に執行されている。

平成７年４月17日

監査 坂本 臣三

〃 松浦 博

平成７年度予算

支部分配金 会員500名未満200円
会員500名以上150円

（収入）

費目	金額	備考
前年度繰越金	329,545	
新入生入会金	340,000	170名＊2,000円
特別会計利息	604,332	
雑収入	10,000	
特別会計より補助	1,310,000	
計	2,593,877	

（支出）

費目	金額	備考
会議費	50,000	
事業費	1,452,027	開校記念品代 50,000 会報印刷代 620,000 8,500部 会報送料 540,000 7,800部 封筒代 78,000 7,000枚 振替用紙 34,027 3,800枚 その他 130,000
通信費	40,000	
事務費	10,000	
慶弔費	160,000	
支部配分金	601,850	関東397 79,400 中京244 48,800 大阪533 79,950 京滋88 17,600 高知832 124,800 須崎1418 212,700 徑川91 18,200 幡多102 20,400
雑費	30,000	
旅費	210,000	
予備費	40,000	
合計	2,593,877	

平成７年度特別会計予算

	費目	金額	備考
収入	前年度末積立額	33,530,000	
	７年度納入予定額	2,810,000	
	計	36,340,000	
支出	一般会計へ補助	1,310,000	
	計	1,310,000	
平成８年度へ累積積立額		35,030,000	

終身会費納入済者名

（平成６年10月１日～平成７年９月30日）

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

松岡　浩介
宮本　友仁
森木　絢大
森田　雅也
山崎　健二
山田　正
横矢　英司
横山陽一郎
池　雅志
伊藤　隆雄
井上　悟志
氏原　稔裕
姪子　貴志
大田　八郎
岡村　隆一
岡山　昌司
門田　吉広
清藤　龍二
笹岡　真弥
佐竹　敏和
高橋　邦明
谷脇　真
寺村　将志
中川　剛
西川　和範
西森　健祐
能見　和生
濱口　昌弓
濱田　泰明
日林　真
前田　英男
正岡　久尚
松本　将吉
丸岡　耕司
壬生　和孝
安並　大品
矢野　功洋
山崎　龍太
横山　陽平

鈴木　智成
高橋　佑次
武村　光矩
竹本かずみ
谷脇　明仁
谷脇　広秋
辻村　欣也
中川　毅
中西　雄行
中山　貴裕
長井　康治
鍋島　典明
西森　万紀
橋田　和巳
濱田　勲
濱田　潤也
濱脇　友和
藤崎　大輔
松浦　正幸
松田　俊二
明神　誠
矢野　真理
山中　健一
横井　孝佳
横山　明
吉岡　充次

電　気　科

背木　友
今橋　栄二
植田　力広
岡村　友秀
小川　裕智
堅田　倫史
門田　昌也
久保　純吾
窪内　啓介
小林　正人
笹岡　紀孝
笹岡　守寿
佐々木眞也
高野　秀喜
辻村　司
中城　清仁
中西　理一
中野　一志
西森　浩司
西森　文彦
橋本　善充
古谷　淳
正木　穣
松浦　寛衡

山崎　真人
山下　貴之
山本　啓介

造　船　科

江渕　克彦
大崎　栄治
大崎　学
上北　修平
川上　健太
河添　貴祥
川渕　正美
北村　利勝
小田　英毅
酒井　薫
坂本　育也
坂本　公進
笹岡　朋弘
佐竹　章一
三宮　直也
下元　美文
白石　真一
田井　進也
高橋　博
武政　努
竹村　良平
田村　隆
中山　竜司
西村　稔之
野村　邦博
藤原　靖之
前田　万年
前田　知秀
松井　雅明
松本　勝成
森部　竜彦
矢野　雄大
山崎　誠
山本　一博
吉本　雅彦

化学工業科

井上　涼一
今西　和也
今橋　淳
小島　涼
梶原　剛史
片岡　雅弥
片岡　龍也
門田　敏宏
久保　昌弘
梨田　沙織

中平　好則
西尾　紀彦
西村　孝佑
西村　龍雄
西山　佳伸
橋本　孝志
濱口　正也
林　孝文
平尾　友和
廣田　孝義
藤原　一生
又川　孝博
水間　伸行
宮本　憲彦
森木　紳貴
森田　吉典
森本　雅之
山岡　秀平
山崎　健示
山崎康使郎
山中　猛
有沢　義人
伊藤　哲
大崎　文仁
岡村　和芳
岡本　雄一
尾崎　良隆
川瀬　康
甲把　昭彦
楠本　秀徳
古味　稔
坂本　開世
白石　雅也
武田　卓志
田邊　純也
田村　直道
津野　友則
戸田　益之
土居　憂司
中山　和久
西村　淳
西村　真
鍋島　宏之
濱口　二郎
濱田　祐介
林　隆弘
福井　信行
松本修一郎
三谷　泰史
南　祐次
明神　広志
山崎　一司

機　械　科

森岡　福男

造　船　科

野村　朗

昭和49年

機　械　科

長山　計一

電　気　科

井上　寛幸

昭和50年

造　船　科

古谷　正彦

化学工業科

谷脇　文男

昭和52年

化学工業科

片岡　昇

昭和53年

電　気　科

芝　敏彦
宮内　泰彦

昭和54年

化学工業科

徳弘　英俊

平成７年

機　械　科

池上　暢
石村　健祐
井上　直人
岩崎　智徳
植田　幸義
大崎　太志
岡田　晋典
長田　勝史
尾崎　昌彦
川添　明弘
竹崎　徹
武政　大師
竹村　雅也
田中　猛
谷　紀明
土居　由幸
中谷　善仁

村上　一正

昭和42年

機　械　科

高橋　和夫

造　船　科

岡辺　初慶
近藤　啓一

電気通信科

田村　二郎

昭和43年

機　械　科

中島　豊

造　船　科

柳本　隆

化学工業科

石川　敏章
横山　雄一

電　気　科

津野　幸康
明神　広明

昭和45年

機　械　科

浜田　康宏

電　気　科

荒木健次郎
北添　敬章

昭和46年

機　械　科

渡辺　祐輔

造　船　科

市吉　邦昭

昭和47年

機　械　科

坂本　勲

電　気　科

片岡　昇
吉門　昌一

昭和48年

昭和35年

機　械　科

芝田　茂

電気通信科

田村　智子

昭和36年

電気通信科

岡村　泰典
西内　正八
林　正道

昭和37年

機　械　科

安藤　雅寛
永田　裕志
野島　瓜一
松田　隆

化学工業科

大崎　章慈

昭和38年

機　械　科

森田　欣直
山崎　速雄

昭和39年

機　械　科

藤本　功
安井　尚弘

造　船　科

秋山　護

電気通信科

弘瀬　博司

化学工業科

笹岡　文子

昭和40年

機　械　科

宮地　稔
浜田　彰
山崎　政義

昭和41年

電　気　科

谷脇　通明

昭和20年

機　械　科

田中　豊
橋本　昭

昭和23年

機　械　科

渋谷　和徳

昭和24年

機　械　科

大崎　忠徳

昭和28年

造　船　科

広見　豊

昭和29年

機　械　科

小野　豊作

昭和32年

機　械　科

傍士　篤志

造　船　科

山添　英彦

電気通信科

岩崎　金男

昭和33年

機　械　科

久保田智也
武市　治雄
西森　貞明

造　船　科

村田　邦男

電気通信科

岡林　博雄

昭和34年

機　械　科

家石　俊一
福井　隆

電気通信科

小野　晃

事務局だより

昭和39年機械科卒
事務局長　井上　耿介

会員の皆様、いかがお過しでしょうか。特に大阪・京滋支部の兵庫県南部地震に遇われた会員の皆様方には、お見舞申し上げます。同窓会本部にも、地震直後に全国各地の同窓生より皆様の安否の問合せがありました。

大阪支部等にも問合せましたが、怪我や自宅・会社に被害を受けられた方は多数ありましたが、幸なことに亡なったと言う連絡は入っておりません。一日も早く復興されることをお祈りいたします。

さて、昨年春退任されました、清家寛前会長の長年に渡るご苦労を感謝しご懇労申し上げる会を計画しました所、各支部や職域の方々のご尽力を載き、平成七年五月四日に、須崎プリンスホテルにおいて、一二五名の会員のご参加を載き盛大にご懇労いたすことができました。

清家前会長様、本当に長年、ご指導下さいまして、誠にありがとうございました。

又、遠路はるばるご出席下さいました県外支部の皆様方、お互いに誘い合って沢山参加して下さって会場を華やかにして下さった女性の皆様方にも特にお礼申し上げます。

来年8月には総会を開催いたす予定をしております。終了後は懇親会を計画しておりますので、楽しい会になりますよう万事お繰合せの上多数ご参加下さい。

（会場を華やかにして下さったＯＧの皆様）

平成8年度 同窓会総会及び懇親会のご案内

この度、平成8年8月に同窓会総会を開催します。左記の日程でご案内申し上げます。会員の皆様方の多数のご出席をお願いします。

記

年月日　平成8年8月11日(日)
時　間　午後四時より
場　所　ＪＡ須崎市三階ホール
（須崎市大間本町14－26）
☎（〇八八九）四二－一七五一

※ご出席いただけます方は、添付葉書を利用して下さい。
尚、平成8年度に入りましたら各支部や職域より、総会出席の案内もいたします。

平成7年度　役員名簿

H7.5.15現在

役職	氏名	卒コード	科別
相談役	田辺　博造	S 18-013	機械2種
相談役	清家　　寛	S 18-010	機械2種
相談役	森岡　　清	S 26-020	機　　械
名誉会長	尾崎　翹彦		
会　長	寺田　郁雄	S 21-025	機械1種
副会長	竹内　良一	S 25-014	機　　械
	下元　征夫	S 37-129	電気通信
	井上　耿介	S 39-004	機　　械
常任理事	武内　徳雄	S 23-034	機械2種
	岡林　幸保	S 28-038	造　　船
	高橋　三雄	S 32-019	機　　械
	植田　幸子	S 32-095	電気通信
	山崎　吉広	S 33-087	造　　船
	西森　昌身	S 34-121	電気通信
	津野　　隆	S 41-090	造　　船
	西山　庸一	S 48-090	造　　船
	古谷　恭啓	S 49-104	造　　船
	長山　孝弘	S 52-028	機　　械
	岡崎　　明	S 53-046	機　　械
理　事	中平　萬年	S 18-017	機械2種
	森下　春茂	S 21-019	機械1種
	川添　　泉	S 21-012	機械1種
	中西　二郎	S 21-027	機械1種
	廣瀬　　理	S 21-029	機械1種
	山田　　豊	S 21-035	機械1種
	吉村　　功	S 21-081	機械2種
	岡林　懸市	S 23-027	機械2種
	堅田　耕勇	S 25-006	機　　械
	竹下　俊郎	S 28-014	機　　械
	野瀬　公介	S 31-099	電気通信
	中西　安男	S 32-023	機　　械
	江口　長靱	S 33-041	機　　械
	松浦　政志	S 35-065	機　　械
	山地　健三	S 39-180	化学工業
	長谷部俊夫	S 41-168	化学工業
	梅原　正博	S 47-116	化学工業
	坂本　定浩	S 54-009	機　　械
監　事	坂本　臣三	S 25-009	機　　械
	松浦　　博	S 37-104	造　　船
会　計	竹崎　貞夫	S 43-040	機　　械

支部長　　幡多：松浦政志　　窪川：川添　泉　　須崎：寺田郁雄　　高知：森下春茂
　　大阪：山田　豊　　京滋：廣瀬　理　　中京：岡林懸市　　関東：野瀬公介

校歌

一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団

二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穏は
波静かなる錦浦

三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

（母校事務室からの伝言）

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。（第二号十九頁の様式）

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき三五〇円
成績証明書	一通につき三五〇円
単位修得証明書	一通につき三五〇円
送料	

送り先　〒785 須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電話（〇八八九）四二―一八六一
FAX（〇八八九）四二―一七一五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様に原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございました。特に、崔氏の原稿は昨年11月にご寄稿下さいましたが、間に合わず本年度会報に掲載させて頂きました。

会報「にしきうら」第20号をお送り致します。会報届先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報に折り込みの葉書で事務局まで連絡下さいますようお願い致します。

平成八年度も会報第21号を発行いたします。事務局より勝手ながら、ご寄稿のお願いを致しますので、九月五日までにお寄せ下さいますようお願い致します。

平成八年八月十一日は総会です。皆様と会場で懇談できることを、楽しみにしております。

編集委員　山崎　吉広

会報「にしきうら」第二〇号
平成七年十二月一日発行
発行所　高知県立須崎工業高等学校
同窓会事務局
印刷所　有限会社　笹岡印刷所
高知県須崎市東古市町二番十六号
TEL（〇八八九）四二―〇二四四番